

Q1 防災無線デジタル化への検討について

デジタル化への取り組みについて

問 当町では、アナログではあるが、早期に防災無線を各家庭に設置し、今日まで災害対応や役場からのお知らせなど、町民の安心・安全のために寄与してきた。しかしながらデジタル化の昨今、近隣市町村もデジタル防災無線に移行し、大切な情報を帰宅すれば留守中の放送も聞くことができる。また、タブレット端末であれば、広報やおつや議会だよりなど、ペーパーレス化により自治会回覧文書の配布も簡素化できるというメリットもある。費用面やケーブル断線時の対応など、デメリットもあると思われるが、現在の考え方や今後の取り組み等伺いたい。

答 (丹羽防災安全室長) 近年、ゲリラ豪雨等による災害の発生を教訓として、防災行政無線にはこれまで以上に多様化する通信ニーズへの対応が要求されているとともに、平常時における有効活用が求められています。当町での戸別受信機による防災行政無線は、平成5年7月に導入してから、25年を経過しておりますが、戸別受信機の故障修理が主なもので、それほど支障や問題もなく運用して参りました。

また、総務省が無線設備規則の改正を行い、平成34年11月までにすべての無線設備を新しく設けられた電波基準に対応するように義務づけました。現在使用している防災行政無線につきましては、新電波基準の規格に対応可能なことから、デジタル化への移行を早期に行う必要がなく、また、すべてのアナログ無線をデジタル化するには、約5〜6億円の財源確保が必要になることなどから、当面は現在の防災行政無線を継続利用していきたいと思っております。

防災行政無線のデジタル化は国の方針でもあり、この先、アナログ無線の修理部品の調達が困難になることから、デジタル化への移行は避けては通れない課題であると考えておりますが、今後はデジタル化に向けて、しっかりと検証し、より有効な情報発信手段として研究を重ねて導入できるよう準備していきたいと思っております。

また、デジタル化での文字情報や録音機能、タブレット端末等の利用についても併せて検討して参りたいと思っております。

そして、ケーブル断線時の対応については、防災行政無線システムをケーブルテレビ網を活用した音声告知端末への切替えについての計画がなされていましたが、CCネットワークの有線放送を活用し、戸別受信機を設置した場合、町には土砂災害警戒区域が、土石流62箇所、急傾斜152箇所と数多くあるため、土砂災害や倒木によるケーブルの断線、停電による災害情報や避難勧告等の緊急放送の情報が伝わらなくなるなど、多くのデメリットがあり、多額の費用をかけて整備すべきかが問題となり、断念した経緯がございます。

山田 勉議員

Q1 杉原千畝氏の世界的遺産登録申請後の取り組みについて

今後の取り組みについて

問 登録申請後の町の取り組みが具体化しているとは思えない。今後どのような態度で取り組んでいくのか。また、再申請についてどのように考えているのか伺う。

答 (金子町長) 世界の記憶登録申請後の取り組みが具体化しているとは思えないとのご質問ですが、これにつきましては、先般実施いたしました「世界に響き渡る命・

平和・勇気のシンフォニー」、リトアニア独立100周年記念事業も行いました。この事業では、多くの町民の方々にご参加いただき、盛大に開催することができました。御礼を申し上げたいと思えます。

これは以前から変わらず申し上げておりますが、杉原千畝氏の人道的行為を次の世代へと受け継いでいくことは、本町の使命であり、千畝氏の功績とともに、命・平和・思いやりの大切さを八百津町の子どもたちにもその精神を引き継いでもらうこと、そして、町民の心を一つにするために計画したものであります。今後も町民の皆様とともに、顕彰事業を進めてまいります。

また、世界の記憶登録再申請について、どのように考えておられるかとのご質問ですが、現在検討中でございます。

Q2 岡田公園の整備について

公園の整備について

問 名誉町民である岡田菊次郎氏の小公園が年々寂れていく感がある。名誉町民に相応しい公園に整備していただきたいと思っているが、どう考えているのか。

答 (永田地域振興課長) 岡田公園の整備につきま

しては、平成14年度からその管理をシルバーバンクに委託し、一体の庭木も含め、良好な状態に維持しております。

現在の岡田公園は、昭和54年に岡田氏のご親族から寄附していただいたもので、土地971㎡に休憩所やトイレ等が建設されており、耐用年数を経過しており、ブロック造りでもあることから、危険な建物と位置づけられております。岡田家とも相談し、了解を得て、解体することといたしました。公園に訪れる方には隣接する大仙寺のトイレを使用していただけのように、大仙寺ともお話しをさせていただいております。

岡田菊次郎氏は、幼くして上京され、岡田商店を設立、その後、岡田商事(株)を築かれた八百津町の名誉町民であります。

岡田菊次郎氏からの多額の寄附は、八百津町の子供たちのために、帽子や傘、勉強道具、教育施設の整備などに使わせていただくことができました。郷土を思い、未来を築く子供たちへの限りない思いと、その功績は今でも町民の心に刻まれており、感謝いたします。

今後も八百津町の誇りである岡田氏の功績が若い世代にも伝わるよう広報等を通じて伝えていくようにしていきたいと思っております。